

論文審査の要旨

報告番号	総研第 690 号	学位申請者	基 敏裕
審査委員	主 査	中村 典史	学 位
	副 査	郡山 千早	副 査
	副 査	嶋 香織	副 査
			博士 (医学・ <u>歯学</u> ・学術)
			杉村 光隆
			西 恭宏

Effect of perioperative oral management on postoperative complications of heart valve surgery

(心臓弁膜症手術の術後合併症に対する周術期口腔機能管理の有効性)

周術期口腔機能管理は近年注目されている支持療法の一つであり、歯科が介入し適切な口腔管理を行うことにより手術後の合併症を予防するということが主な目的である。血流感染は心臓手術後に発症する合併症で、その前段階である菌血症は歯科治療に密接に関わっているとされている。様々ながん手術に対する周術期口腔機能管理の有効性は報告されているが、心臓手術における有効性は明らかでなく、その臨床的意義については一定の見解を得ていない。そこで学位申請者らは、心臓弁膜症手術患者 365 名を対象として、術後合併症に対する因子探索研究を実施した。さらに、緊急手術患者 64 名を除いた 301 名を対象として、周術期口腔機能管理の有効性を後ろ向きコホート研究で検討した。アウトカムは、術後血流感染・術後肺炎・長期挿管・死亡・感染に関連した死亡とした。因子探索研究ではロジスティック回帰分析を行い、後ろ向きコホート研究では傾向スコア逆確率重み付け法を用いて分析を行った。

その結果、本研究で以下の知見が明らかにされた。

1. 周術期口腔機能管理の欠如は、術後血流感染発症および 48 時間以上の術後長期挿管の危険因子である可能性が示唆された。
2. 周術期口腔機能管理群(157 名)では対照群(144 名)と比べて、術後血流感染発症率や死亡率および感染に関連した死亡率が有意に低かった。
3. 術後血流感染発症者の血液から複数の細菌および真菌が検出され、そのうち周術期口腔機能管理群では、*Pseudomonas* 属や *Corynebacterium* 属等が検出されなかった。
4. 14 名の死亡例のうち 6 名の死亡理由は感染に関連していた。

周術期口腔機能管理を受けないことは心臓弁膜症手術の術後合併症のリスクを高める可能性が示唆された。また、同管理は術後血流感染を予防することによってそれに伴う死亡も減少させることが明らかになった。これらの結果から、周術期口腔機能管理は心臓弁膜症手術を受ける患者にとって有益であると言える。本研究は、心臓弁膜症手術における周術期口腔機能管理の有効性を検討したものであり、傾向スコア逆確率重み付け法を用いた点はこれまでに報告がなく非常に興味深い。よって本研究は学位論文として十分な価値を有するものと判定した。